

### ◇尊敬されるべき存在なのに

「最近の日本では、親が子を、子が親を殺めるなどの悲惨な事件が頻発している。日本はどうなってしまったのか、と心配する声も多くなったが、家族を大切にできない人が増えてしまったようである。また、父親や母親を尊敬していない中学生や高校生が増えてしまっている。家族を大切にすることはとても重要であり、日本の父親や母親は、子どもからもっと尊敬されていいし、尊敬されるべきである。皆さんには、このようなこの国の悪しき風潮を改めてくれるよう強く期待している。」と卒業式(3月11日)の式辞に述べました。

※父親を尊敬する日本の中高生は39%、アメリカは93%、母親を尊敬する日本の中高生は43%、アメリカは95%と新聞の記事にありました。この大きな差はどこから生まれてくるのでしょうか。アメリカの親は立派で、日本の親はダメな親なのでしょうか。愛情を注ぎ、成人間近の中高生の年齢まで育てるのは、並大抵のことではありません。このことだけでも、十分に尊敬に値することでしょう。親は単なる同居人ではありません。親が親として存在すること自体が尊敬に値する、との認識をもたせたいものです。

### ◇創造的な人間を育てるには

競争の激しい社会を生き抜くために、創造性に富む人間が特に必要になったのか、それとも、創造性を欠く人間が多くなったのか、創造性を培い、創造的な人間を育むことの重要性がしばしば語られた時期があった。しかし、創造的な人間はどのように育まれるかといったことは、語られなかったように思います。どうしたら創造性を養うことができるのか、私はよく分からなかったし、多くの人が気安く口することに違和感を覚えました。創造的な人間を育てるにはどうしたらよいのでしょうか。

#### -----創造的な仕事をした人たちは-----

- ・発明王エジソンは、「天才とは1%の靈感と99%の汗である」と言った。
- ・ミケランジェロは、「石の中に閉じこめられている。救い出さねば」とダビデを彫った。
- ・湯川秀樹の中間子理論は、枕元で思いついたことだった。(毎晩同じことを考えていた。)
- ・ニュートンは、リンゴの落ちるのを見て万有引力を発見したとのことであつた。
- ・キュリー夫人は、0.1グラムのラジウムを抽出するのに、8トンの鉱石と8年の歳月を必要としたのだった。
- ・野口英世は、24時間仕事男と言われ、目的のために最後までやりぬく精神力は、けたはずれなものだった。
- ・メンデルの法則は、8年間のエンドウの交配実験と統計処理という気の遠くなるような超人的な努力と執念が生み出したものだった。(『心にしみる天才の逸話(山田大隆著)』他より)

創造的な仕事を成し遂げるには、ある種のひらめきと、けたはずれの努力が必要ということでしょう。ひらめきは誰にもあるわけではなく、一途に努力している人にもみえるようで、成就させるためには、高度な知識や技能も必要ということでしょう。

このように考えてみると、創造的な人間は、諸々の真新しい教育活動によって育まれるというものでもなさそうです。よく学んで力を蓄え、粘り強く努力するひたむきさや活力のある生徒の育成によって叶えられることでしょう。

### ◇道徳教育の見直し(3)

昨年度、全クラスが本校で論語の素読をしましたが、生徒に好評で、とてもいい体験だったと思います。習っていない漢字がたくさん出てきて、難しすぎないかとの意見(訾議)もあったのですが、江戸時代には、寺子屋の中心的な学習として論語を習っていたのですから、現代でも大丈夫と考えています。

山谷えり子参議院議員(元訕訕)の故郷は、幕末の志士、橋本左内が育った土地柄(訕訕)だけあり、小学校時代に、左内が15歳の時に誓った5つの誓いを習ったのだそうです。「一つ、稚心を去る。一つ、気を振う。一つ、志を立つ。一つ、学に勉む。一つ、交友を択ぶ」

幼稚な心を卒業して立派な人間になろう。気を奮い立たせて負けない人間になろう。気を奮い立たせても、志を立てなければ醒めてしまう。志を立てたからには、学問に励まなければならない。良い友をもって、互いに励まし合うことは大切である。だから、自分にとって良いか良くないかを選ばなければならない。(といった意味がネットに紹介されていました)

というもので、心が清められ高められる思いがしたと語っています。今も、「左内の15の誓い」が教えられているということです。ならば足利では、郷土の誇り、足利学校が祀る孔子の教えを学ばせたいと改めて意識させられたのでした。今後も、素読の声が校舎内に響き渡る学校にしていきたいものです。

道徳では、作り話のような資料で話し合い、道徳的価値を追求していくような授業が多いと感じています。道徳の時間は、道徳的価値を補充、深化、統合する時間とされていますが、道徳的な価値を統合するような授業は、作り話では難しいと思います。教師も生徒も道徳の時間が好きになるには、作り話のような資料と決別することが大切でしょう。

どうしてこんなことが、と思える悲惨な事件が頻繁に発生する現状は、昭和33年からやっている道徳で、生き方を学べていないからと感じています。道徳の時間は、道理を学ぶとともに、人柄や品性を高めていける時間でなければならないと思います。

### ◇秘してこそ

どこの学校の教育計画でも、探せば「感化」という言葉が一度や二度出てきます。教育界は感化ということをととても大切にしています。

30年程前、私は、「先生はセイシンの先生だね」と言われたことがあった。瞬間、何のことだか分かりませんでした。が、「清新」であるはずがないし、「聖心」であるはずもない。「精神」の先生という意味でした。

さて、自分を、「精神の教師です」と言ったらどういうことになるでしょう。軽蔑されるのではないかと思います。自分たちの教育活動を、「感化による教育です」とでも言ったら、同じことになるでしょう。私は、他人を感化できるような人間になりたいとは思いますが、感化という言葉は口にしなないようにしてきました。

足利市の学校教育指導計画に、教師は薰陶(=その人の優れた人格で、他人を知らず知らずのうちに感化し、立派な人間にすること)という考え方を念頭に、専門性や人間性を磨くことが大切であるとの記述があります。感化には、いい感化もあれば悪い感化もある。したがって、感化よりも薰陶は、味わい深い崇高な理念であると思います。